

開かれた組合を目指して ～異業種集団が地元大学と連携～

村田 京華

江別工業団地協同組合
専務理事



要 旨

北海道での少子高齢化がどんどん進む中、組合員は新規採用の苦労を続けている。江別市は、人口12万人を超え、市内に大学が4校あるにもかかわらず、団地内企業へ就職する学生はほとんどいない。

この現状を変えるため、組合に何ができるだろうか？

市内大学生は1万人を超えるが、江別市に工業の集積地である「工業団地」があることすら知らない。じゃあ、知ってもらおう！！

知ってもらうにはどうしたらいい？

学生に組合員企業を回ってもらおう！記事を書いてもらおう！！

映像もあるといいよ！

良い企業が沢山あることを知ってもらい、将来、雇用に繋がればいいね！

そんな発想から、異業種集団が大学との連携を始めました。

取組期間は4年間に渡り、その取組み内容をご紹介します。

》 組合概要と組合員間の連携

【 組合概要 】

江別工業団地協同組合は、江別市の北東に位置し、総面積は197.7ヘクタール。東京ドーム42個分の面積の中に、異業種133社が集積し、企業数は、下請け企業を含むと150社を超え、3,500人を超える人々が働いています。



1974年11月に異業種82社で設立し、今年で46年目を迎える組合は、設立当初より順調に組合員数は増え続け、現在は団地内全ての土地が完売しており、また、主要集積地（札幌、千歳、石狩）までの立地条件の良さから入ってきたいと希望する企業が絶えない場所です。

団地内の構成企業は、製造業、建設業、運輸業、産業廃棄物処理業等々であるが、製造業が全体の70%以上を占めており、大きな工場が点在しています。

組合事業の主力は、団地内に電気を供給する「共同受電事業」、その他、教育情報事業、安全衛生事業、福利厚生事業、広報事業、販売購買事業、総務事業等年間50以上の様々な事業を行っています。

【 異業種ならではの連携 】

工業団地としては珍しい異業種の集団であるわが組合。異業種ならではの仲の良さが新しい事業を受け入れる基盤となっているような気がします。そして、強みでもある。

組合員は自分たちの技術に自信をもち、お互いの技術を持ち合い新しい製品作りも可能であり、江別市の市営住宅建て替え工事計画が発表された際には、組合から団地内企業の紹介を行うとともに、組



合員同士で協力し、新しく作り上げた製品を納入する事も可能となりました。

今回の大学との連携事業も、組合として行う事業としては、珍しいものと認識するが、やってみよう！と、すんなり協力してくれるところが自慢です。

》 取組事例1

～札幌学院大学×江別工業団地 広報プロジェクト～

【 取組のはじまり 】

雑談から始まった「学生に企業取材してもらおう！」は、その後、次のような手順を経て、始めることとなりました。

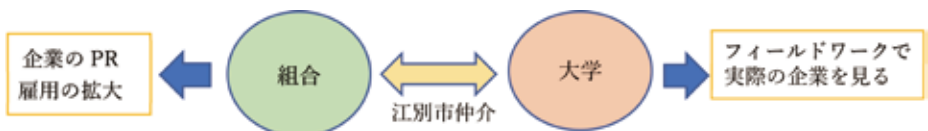
江別市には、産・学・官・農が連携する「江別経済ネットワーク」という組織があり、定例会では自分たちの活動内容の発表を行う他、江別のブランド化を検討しています。もちろん、当組合も「幹事」としてメンバーに加わり、様々な業種の活動を知るとともに、人脈を増やしていました。

その江別経済ネットワークを主催していた江別市の担当者に声をかけ、今回の企画について大学で取り組んでもらえないか聞き取りを行ってもらいました。

江別市には4つの大学（酪農学園大学、北海道情報大学、札幌学院大学、北翔大学）がありますが、経済に関係ある大学を優先し、打診してもらった結果、一つの大学から興味を示してもらい「事業の概要説明」を組合からさせていただきました。

この最初の連携となった「札幌学院大学」は、その年、新しい学部を開設し、学生たちのフィールドワーク先を探していたことと合致し、取り組んでいたこととなりました。

学生の授業の一環として取り組んでもらえることとなった事は、本当に、良いタイミングに恵まれたと思っています。



【 学生達への事業概要と取材の仕方の説明を授業の中で実施 】

2016年3月に大学側への説明会を実施し、担当してくださる学部先生達との打合せが済んだ後は、取り組んでくれる学生達に事業概要の説明を大学で行いました。

まずは、「何のためにこの取り組みをするの?」「組合ってどんなところ?」「企業を取材するときの注意事項は?」「カメラワークってどうやるの?」「紙面構成はどんなふうにしたらいいの?」という5つのキーワードに分けて、各担当者が学生達に説明しました。目的については組合副理事長から、組合説明・企業を訪問するときのマナーは私、カメラワークはプロのカメラマン、紙面構成は江別市広報広聴課担当者をお願いし、2回の講義に分けました。50名を超える学生達の反応はというと、皆さん真剣な目で見つめ、しっかり聞いてくれました。もちろん、色々な質問もありました。その様子を見た時に、若い力を感じましたし、わくわくした気持ちになりました。



【 さあ！実際に学生が企業へやってきた 】

初年度は担当教授5名、1グループ5名（取材担当3名、カメラ2名）で組み、企業を訪問しました。学生達は事前に知らされている企業の情報を、訪問する前に勉強し、自分達の名刺を作り、スーツを着込んで訪問します。事前に調べた質問事項の他、工場見学で気づいた質問、今の若者（学生）に対し企業はどんなことを望むのか等どんどん切り込んで取材をします。普段、学生と関わる事が少ない社長さんたちは「いろんな下調べしてきてたよ」「い

「刺激になったよ」と、言ってくださいました。学生達からは「緊張した〜!」「あんな質問内容で大丈夫だったかなあ?」「工場見学は楽しかった」等、帰りの車中で聞こえます。

2年目、3年目は担当教授3名、1グループ3名で行いました。初年度からみると人数は減ったものの、前の年に出来上がっている原稿を参考にしながら出来上がる紙面は毎年レベルアップを続けていました。



実際の取材風景

【 組合事務局の役割と苦労 】

工業団地は、江別市の郊外にあるため公共機関の乗り物は少なく、団地内で働いている従業員さんの殆どがマイカー通勤です。そんな立地条件ですから、学生達の送迎を行う他、組合員企業へ取材受入れの許可を取ることが事務局の役割でした。

当初の目論見では毎週5企業回り、1年経たずに終わってしまうのでは??と、心配していましたが、実際に取材の許可を組合員企業さんに行ってみると、一つの問題点が浮かび上がってきました。

その問題とは、大学の授業の一環として取り組むため、「水曜日に事前資料作り、金曜日午後3時半から取材」という流れになっていることでした。

企業にとって金曜日は週末、それも午後遅い時間帯は、工場の生産もひと段落し機械設備の清掃や点検に入っている時間帯、これだと良い写真が撮れない、という問題でした。

また、取材対応してくださる社長さん達は不在のことが多い。

なんとか、日程調整を組合員さんをお願いするとともに、「絵になる場所」を作ってもらう事をお願いするのが、本当に苦労しました。

初年度に終わる予定だった取り組みは、この問題により3年を費やすこととなりました。

【 出来上がってきた作品 】

組合からの要望は「A4用紙1枚に企業の魅力をまとめる」でした。事前調べをして取材に行き、紙面にまとめる…。自分たちの思いを込める…。大変だったと思います！でも、頑張ってくれました！次々と原稿が上がってきます。最終仕上げの前には、また江別市広報広聴課担当者を交えて、質問や紙面についての意見交換を行います。

この授業をとおり、企業って凄いと感じた学生、取材する楽しさ、紙面構成の楽しさを感じた学生、様々な感じ方があり、卒業後の未来へ繋げることができたと思っています。

実際に、企業への魅力を感じ工業団地内企業へ就職した学生、紙面構成の楽しさを続けたくて広告代理店に就職する学生が現れました。



学生からの発表風景



江別市広報広聴課担当

【 3年間の取組のまとめ 】

こうして、3年間の取組を実施し、取材企業は77社(全組合員の58%)となり、ある程度の成果と雇用に係る学生達の反応も見えたところで、一旦プロジェクトを終了しました。毎年度終了時には、学生達とともに江別市長を訪問し、活動内容の報告を続けるとともに、3年間の取組を冊子にまとめ、市内大学、経済団体、江別市に配布する他、組合で年4回発行している広報誌に「企業紹介コーナー」を作り、現在も掲載しています。

また、学生達がいつでも団地内企業内容を閲覧できるよう「組合HP」にコーナーも新設しました。(携帯で閲覧可能)

札幌学院大学では、当組合との取組を随時学生達に発表する他、取組終了

後のフィールドワークは、今回の取組を知った江別市に隣接する町からの依頼を受け、現在も続けています。

今回の取組で、「江別市に工業の集積地がある事」「オンリーワンの技術を持つ魅力ある企業が沢山ある事」を知ってもらうとともに、就職活動をするときに候補の一つとして考えてもらえるようになった事、学生達が実際に企業を回ることにより職場を感じてもらえることができた事は大変嬉しく思っています。



市長への報告会



冊子



広報のプロを目指す卒業生

最後に、授業の一環として取り組んでいた札幌学院大学へ、授業の活動資金として3年間寄付を続けさせていただきました。



》取組事例2

～北海道情報大学×工業団地 CM制作プロジェクト～

【 工業団地PR 第2弾は動画 】

4年目は、工業の集積地である「工業団地」を知ってもらうため、CMを作成し、色々な場所で、色々な人達に見てもらえる取組をすることを所管委員会で決定。

連携する大学は、優れた映像技術を持ち、地域PRに積極的に取り組んでいる北海道情報大学を選び、前回の取組でお世話になった方（元江別市職員）に橋渡しをお願いして、教授を紹介していただきました。早速、副理事長とともに取組概要と主旨を説明したところ興味を示していただき、今回は、ゼ

ミナールの一環として取り組んでいただけることになりました。チームは先生を含め9名。3年生が中心となり、4年生数名がサポートに入る形でスタートしました。

【 制作会議への参加・組合の役割 】

2019年4月にチーム代表者と打合せを実施。すぐにゼミは動き出し、毎週、学生達と「どんな作品にする?」「何本作る?」「ターゲットは誰?」等、様々な打合せを重ねました。

組合の役割は、企業・組合の情報を提供するとともに、学生達が考える様々な動画撮影に必要な要望に対応し、制作のお手伝いをします。

毎週重なる、学生達との打合せは、若い視点ならではの企業の魅力を発見する他、今後の団地内雇用活動に参考となる意見も多数出ており、大変有意義な会議となりました。

そして、制作する動画に出演したり、学生達が作品作りに行き詰った時は、一緒にご飯を食べたり、歌ったり、気分転換のお手伝いをするのも役割の一つでした。



【 企画・動画撮影・編集 】

最終的に動画は3シリーズ、5本。アニメーションで工業団地の概要を説明する「工業団地協同組合ってなんですか?編」、家庭内にある組合員企業の製品を紹介する「ふるさと母ちゃん編」、1人暮らしの大学生の身の回りにある組合員企業の製品をドラマ仕立てで紹介する「日常と工業団地ドラマ編」を制作しました。



リーダーからは、「クスッと笑えるシーンなど、動画を楽しみながら工業団地の魅力や製品を紹介するようにした」と、意見をいただいています。作品作りは、すべて学生達が行い、組合からは、副理事長と私が作品に登場します。

作り上げた動画は、下記の組合HPで視聴できます。

<http://www.ebetsu-kougyou.jp>

【 動画の広報活動・寄付 】

2019年12月末を目標に作り上げてきた動画は、翌年1月の組合新年交礼会において、組合員及び来賓として来ていただいた江別市関係機関の方々に披露する他、年度末には江別市長への活動報告も行いました。

同時に、組合HPでも視聴できるようにしていますが、将来は、江別市内の各待合（病院・市役所）で工業団地のCMを流せるようになるのが目標です。

そして、札幌学院大学同様、制作費用に充てていただくため寄付も実施しました。



出来上がった動画の数々



制作した学生達



市長への報告会

》開かれた組合を目指した活動に必要なもの

組合は、事業基盤と財政が安定し始めた平成13年くらいから地域に開かれた組合作りに着手しました。初めは、江別警察署と連携し「団地内幹線道路で旗の波街頭啓発」、江別市社会福祉協議会と連携し「赤い羽根大口共同募金」、江別市と連携し「団地内緑地帯の協働記念植樹」、周年毎（5年に1回）に開催する「工業祭」、その後、市民からの要望で、次の工業祭までの間に毎年開催する「工業団地産直朝市」、そして、団地内企業のPRを図るための「大学との連携」を続けてきました。

これらの取組は、まず、新しい事を受入、実行しよう！と、言ってくれる役員が沢山いること。そして、日頃から交流を深めている組合員の理解があるからだと思います。

組合事務局は、様々な事業で組合員のみなさんとコミュニケーションをとり、何でも相談できる組合作りをしなければなりません。また、小さな町ならではのコミュニケーションをとるため、市内様々なイベントや会議に参加することも必要だと感じています。

開かれた組合を目指すためには、常に先を見て、色々な事にチャレンジする意識と、それを実現するための安定した財政づくり、理解・協力してくれる役員・組合員が必要だと思います。

江別工業団地協同組合のチャレンジは、まだまだ続きます！！